

癒し(がんとは)

シカゴ イリノイ州 アメリカ合衆国

1953年09月04日

1 主よ、私は信じます、

すべては可能です、主よ、私は信じます。

頭を垂れましょう。天のお父様、今宵も再び集まり、あなたの愛する御子キリスト・イエスを礼拝する特権を与えられたことを感謝いたします。主は私たちにとってすべてであり、私たちの命そのものです。私たちの存在のすべては主に負っております。かつて私たちは神から遠く離れ、望みもなく、キリストも知らず、この世にあって異邦人として切り離されてきました。しかし、キリストは私たちの代わりに死んでくださり、私たちを神に和解させてくださいました。今や私たちは神の息子・娘となり、終わりのときにどのようなになるのかはまだ明らかではありませんが、主の栄光の御からだと同じ姿になると知っています。私たちはその方があるがままに拝するのです。これを思うと心は震えます。しかしこれは真実です。なぜなら神がそう約束されたからです。

父よ、この希望を抱くすべての者が今夜大いに喜びますように。まだこの望みを持たぬ者には、悔い改めの悲しみを与え、今宵あなたのもとに来て、この驚くべき希望を見いだすことができますように。どうかこの礼拝を通してご自身の栄光を現してください。そして無益な僕をお助けください。これを主イエスの御名によってお祈りいたします。アーメン。

2 主が皆さん一人ひとりを祝福してくださいますように。

今夜はきっと素晴らしい時を過ごされたことでしょう。さまざまな方々の証しを聞き、またインドから来た兄弟が神の栄光を証しされたのを聞かれています。

私は心から、神がこの終わりの時に行っておられることに感謝しています。神はあらゆる所から人々を引き寄せ、ご自身に仕えさせておられるのです。この偉大な引き寄せの力——それは世界がこれまでに知ったどんな力よりも大きなものです。

イエス様は言われました。「わたしが上げられるなら、すべての人をわたしのもとに引き寄せる」と。私たちがただ単純に、純粋な福音の中でイエス・キリストを人々の前に掲げるなら、引き寄せてくださるのは主ご自身なのです。これこそ、この世がかつて知ったことのない最大の磁力です。

少し前、私はインディアナ州のゲーリーという町に行きました。そこにある製鉄所を案内してもらったのですが、大きな工場の中で、鉄を切り出して鋼をつくる作業が行われていました。そして、たくさんの鉄くずを中央の通路に掃き集めているのを見たのです。私は不思議に思いました。なぜわざわざ通路に掃き集めているのかと。私はまだ、その理由を知らなかったのです。

3 彼は言いました。「ちょっと待ってれば分かりますよ。」

やがて全員が鉄くずを通路に掃き集め終わると、彼はボタンを押しました。すると、轟音が響き始め、私は何事かと不思議に思いました。

遠くのレールの先から、大きな磁石が近づいてきました。その磁石は床の上を通り過ぎると、鉄くずが次々と飛び上がって磁石に吸いつき、そのまま溶鉱炉の部屋へと運ばれて、新しく形作られていくのです。

私は思わず「主を賛美します!」と口にしました。

すると彼は「今、何とおっしゃいました?」と聞きました。

私は「主を賛美します!」ともう一度答えました。

彼は「なぜそんなことを言うのですか?」と不思議そうに尋ねました。

私は言いました。「その答えをお伝えする前に、ひとつ質問してもいいですか?」

彼は「ええ、どうぞ」と答えました。

私は尋ねました。「なぜ、すべての鉄くずが吸い寄せられなかったのですか?」

すると彼はこう答えました。「旦那、あれはアルミニウムなんです。磁石には反応しないんですよ。」

私はまた「主を賛美します!」と叫びました。そしてさらに、「では、あそこに転がっている鉄がなぜ行かなかったのですか?」と尋ねました。

すると彼は「よくご覧ください、旦那。あれはボルトで固定されているんです」と答えました。

私は再び「主を賛美します!」と言いました。

すると彼は「いったい何を考えておられるんです?」と尋ねてきました。

4 私はこう答えました。

「私は今、天におられる大いなる磁石のことを思っているのです。全能の神の右の座におられるお方を。ある日、神はその磁石である主をお遣わしになり、その御霊に引き寄せられているすべての者が空中に引き上げられ、これら古いからだは造り変えられて、神の御わざにより新しくされるのです。」

なんと驚くべき時でしょう。私たちが主の御かたち、御姿に造り変えられるその日。

イエス様は必ずや来られます。私たちはみな、その日を心から喜ぶのです。そうではありませんか?

今夜、福音はすでに語られました。これから聖書の御言葉をお読みしたいと思います。

その前に、一つお礼を述べさせてください。私の息子を通して、封筒に入れられた十ドルの捧げ物を送ってくださった姉妹に感謝いたします。本当にありがとうございます。その姉妹は、今夜の愛の捧げ物の時には出席できないので、前もって私に渡してくださったのです。私たちの集会の目的はお金を求めることではありませんし、そのようなことはいたしません。

5 もう一人の姉妹も、バクスター兄弟を通して封筒に捧げ物を送っていただきました。それは半分は彼に、半分は私にと、愛の捧げ物として分けられるものでした。バクスター兄弟も大いに感謝していると思いますし、私も心から感謝しています。

私は、私に与えられるお金のすべてに祈りをささげます。それは私と同じように働き、生きている方々が尊い労苦の中から捧げてくださるものだからです。本当に感謝しています。そしてこの捧げ物の上にも祈り、神があなたを祝福し助けてくださるよう願いました。

さて、明晩の集会についてお知らせいたします。もし主の御心ならば、明晩は——と申し上げたいのですが、多くの方々からお手紙をいただいております。アメリカでは…私はアメリカ各地を回ってきましたので、多くの人々はすでにこの不思議な靈感の現れ、預言的な語りの側面を見てきました。それゆえに多くの人々が信じるようになったのです。

しかし、それはあくまでも人々が信じるための「しるし」にすぎません。もしあなたが正しく聖書を読むなら理解できるでしょう。彼はこう言われました——「私は自分の能力を疑った。しかし、病人のために祈るように遣わされたのだというしるしが与えられるだろう」と。

6 さて、私はすべての病人に対して「しるし」を行うよう命じられていたわけではありません。モーセがしるしを与えられてエジプトへ遣わされたとき、彼は出会うヘブル人ごとに「見なさい、私の手をらい病にして、また癒したぞ。見なさい、この杖を蛇に変えてみせよう」とやったわけではありません。ただ一度、それを示ただけで十分だったのです。

ところが今日、私は本当に多くの手紙をいただきます。「集会に来て祈ってもらって席に入れませんでした」と。祈りの列に立っているのはごく一部の人で、しかも一人ひとりを待ちながら立ち、天の父がその人について何かを示されるまで待つこともしばしばあります。すると当然、多くの人には手を置くことができないのです。

すべては壇上に立つ人の「信仰」にかかっています。そして祈ってほしい方々が数百人もおられるため、順番をどうするかを決めねばなりません。誰を最初に、誰を最後にするかを私たちが決めることはできません。ですから「祈りのカード」を配り、それを持った方々を壇上に呼び、並んでもらうのです。

7 さて、多くの人々は「自分が個人的に祈ってもらえなければ癒しを受けられない」と信じているのは事実

です。

しかし、そうではありません。皆さん、祈りは確かに神が私たちに命じられたことです。けれども——オズボーン兄弟、そうですね？——癒しの源はカルバリーにあるのです。

今夜ここにおられるトミー・オズボーン兄弟は、宣教の現場で最も成功を収めてきた人の一人です。これは本人の前だから言うわけではありません。皆さんもご存じのとおりです。彼は私の愛する兄弟です。なぜなら彼は福音を混ぜものなく、清くまっすぐに守り続けてきたからです。私たち皆がそれを感謝すべきです。そこには狂信も、裏に何か別のものもなく、ただ純粹に真っすぐな福音だけがあるのです。

少し前、私は彼に尋ねました。「疲れませんか？」と。すると彼はこう答えました。「いや、疲れな。私はただ福音を語り、人々にそれを余すところなく伝えるだけです。するとサタンは立ち入る余地がなく、人々はただ手を伸ばし、癒しを受け取り、立ち上がって歩き去るのです。それだけです。」

これこそ本来あるべき姿です。しかし、私たちが福音そのものを疑ってしまうときには、神は人々の間に「しるし」と「不思議」を送ってくださり、それによって福音を裏づけてくださるのです。

8 アフリカでのことです——これは私の言葉ではなく、ボズワース兄弟の証言です。彼の推定によると、あるアフリカでの集会において、一度の祈りで二万数千人もの人々が癒されたというのです。想像してみてください。一度の祈りで二万数千人が癒されるのです。

祈りの列があり、聖霊がその場に臨み、啓示を与えてくださっていました。私は彼らの言葉を話すことができませんでした。通訳者が私に示された幻を人々に伝えていました。ほかの国々でも同じように行われました。私はその人に何が起きているかを見せられますが、言葉は通じないのです。そこで通訳者がそばに立ち、私の語ることをその場で訳すのです。すると、その働きはここで行われるのと同じように完全で、神の力が現れるのです。

では、それは何でしょうか？——それはイエス・キリストご自身が人々の心の中にご自身を迎え入れようとしておられるのです。そして、人々が壇上に呼ばれ、神の栄光と力を目の当たりにしたその後……

9 ある集会のことです。

壇上に上がってきたのは、とても健康そうに見える一人の女性でした。

神が示された通りに、彼女がどこに行つて何が起きたかを私は伝えました。実際に彼女にあったのは卵巣のう胞だけで、医者たちは「もう長くは生きられない、死の準備をなさい」と告げていたのです。

彼女は夫と一緒に席へ戻りながら、「どうしてそんなことがあり得るのか」と思っていました。そしてその場で息絶えたのです。突然、死んでしまったのです。

私はこうしか言えません——もし私が「癒し主」だったら彼女を癒せたでしょう。しかし私は、神が告げられたメッセージを伝える者にすぎません。神は「彼女の時は来た」と仰せられ、それがそのまま起きたのです。

彼女自身は信じられなかったでしょう。しかし、その直後に命を落としました。壇上を普通に歩いてきた女性で、ただ卵巣に小さなう胞があっただけでした。私は彼女がどの医者にかかっていたか、その医者がどんな姿で何を言ったかまで告げました。彼女は「それは事実です」と答えました。

さらに私はこう言いました。「あなたはご主人と一緒におられましたね。彼はホールに座っていましたね。」

彼女は「その通りです、まさしく真実です」と答えました。

そして私はこう告げました。「死の備えをなさい、それは近いです。」——なぜなら私は、彼女の葬列が出ていく幻を見て、彼女が召されることを知っていたからです。

10 壇上に立っているとき、時には神が何もお語りにならず、ただその人の姿が暗く沈むように見えることがあります。そのとき、私はそれが「死」を意味していると分かります。

しかし私は、過去の出来事として神がはっきり示されない限り、決して軽々しく「死」を告げることはしま

せん。なぜなら、祈りが神の御心、特に死に関するご計画を変えることがあるからです。ご存じでしたか？それは本当なのです。

ヒゼキヤ王のことを思い出してください。彼は一度、死の宣告を受けました。預言者は「家のことを整えよ」と告げました。しかしヒゼキヤは顔を壁に向け、激しく泣いて主に訴えました。その時、預言者は引き返し、「主があなたの祈りを聞かれた」と告げたのです。祈りは物事を変えるのです。そうでしょうか？確かにそうです。そして今夜も私たちはそれを信じています。

ですから忘れないでください。腫瘍やがんのようなものについても、聖霊が何を語っておられるかをよく注意して見なければなりません。もし何か聞き間違いや混乱があれば、録音を確かめてください。そこで語られていることがそのまま起こるのです。どれほど時間がかかっても、それはその通りになるのです。

11 私はこれまでも、しばしば人々の証しをお話してきました——神の御使いが癒しをはっきりと宣言されることがある、と。

ここでの一例を思い出します。ある女性は胃の病を患っていました。もう一人の女性は首に腫瘍を持っていました。主の御霊は彼女たちに、「あなたは癒された。家に帰って食べなさい」と告げられました。

しかし、胃の病を抱えたその女性は食べられませんでした。食べようとするたびに激しい吐き気に襲われ、ほとんど6週間も苦しみ続けました。それでも諦めずに食べようと挑みました。

するとある朝、朝食を終えて食器を洗っているとき、不思議な涼しい風のようなものが彼女を包みました。その瞬間、彼女は食べられることに気づいたのです！彼女は大喜びで隣人のもとへ走り、知らせました。すると隣人も叫びながら喜んでいました。なぜなら、その首にあった腫瘍が消えていたからです。

これは何でしょうか？——主の御使いが6週間後にその地域を通り過ぎ、御言葉を「しるしをもって」確認されたのです。神は必ず御言葉を成就なさいます。

思い出してください。かつてダニエルが祈ったとき、御使いが彼のもとに届くまで21日間も妨げられたことがありましたね？私たちが仕えているのは今も同じ神です。同じ御使いたちが今も存在し、働いているのです。

さて、多くの場合——特に「がん」について——皆さんの中には正しい理解を聞き逃してしまう方もおられるでしょう。では少し時間を取って、「がんとは何か」をご一緒に見てみましょう。残り5分ほどありますので、その時間を使います。

。

12 がんというものは……そうですね、自然界の中で言えば「清掃者(スカベンジャー)」と呼ばれる類のもので。私は最初、神を知ろうとしたときに、木々や植物など自然界から学び始めました。ですから、もし主が許してくださるなら、日曜日に「宇宙に現れる神、御子に現れる神、御言葉に現れる神、そして神の民に現れる神」という題で説教をしたいと思っています。神がどれほど私たちの近くにおられるかをお示したいのです。神は常に私たちの周囲におられ、共におられ、世の終わりに至るまで私たちの内におられるのです。神は自然を通して、太陽系を通して、あらゆるものを通してご自身を表しておられます。神は宇宙全体におられる方なのです。

さて、ここで自然的なものとの霊的なものの関係の一つ例として見てみましょう。時計を見ると、祈りの列を始めるまであと5分ほどです。可能な限り、このことをお話します。

がん——それは世界における二番目に大きな敵です。第一は心臓病です。保険会社の統計によれば、次いでがん、そして結核が続きます。自然界で言うなら、がんは「腐敗したものを食らうもの」、つまりハゲタカや掃除屋のような存在と呼べるでしょう。

がんは多くの場合、打撲傷から始まります。打撲で細胞が壊れ、いわば「後退」してしまうのです。そしてそこに別の「いのち」が入り込み、根を下ろすのです。

13 たとえば、あなた自身のことを考えてみてください。

かつてあなたは「何ものでもない、どこにもいない存在」でした。しかし、あなたが「何かであり、どこかに存在している」ということがなくなる時は決してありません。

最初、あなたはほんの小さな「いのちの芽」でした。男性がいのちの胚(いのちの種)を提供し、女性はそれを育む「器」となるのです。ここには男女が共にいますが、私の話を聞いてください。あなたが医師の話を聞くのと同じように、私は兄弟として話しています。

見てください。雄から雌へと渡る花粉のように、その小さな「いのちの芽」は、肉眼では見えないほど微細です。顕微鏡でしか確認できません。その最初の小さな細胞の中に、まるで結び目のようなものができ、それが脊椎(せきつい)のように伸びはじめ、細胞が増えていきます。そして「すべての種はその種類にしたがって」という神の法則どおり、犬は犬、人間は人間、鳥は鳥、といったように雄と雌の組み合わせに応じて発達していくのです。

やがて、その小さな「いのちの芽」は膨らみはじめ、形を成していきます。それがかつてのあなたの姿でした。細胞を押し出し、さらに細胞を押し出しながら成長していき、九か月の時を経て誕生し、やがて大人の女性・男性となるのです。

今のあなたは、あの一つの小さな「いのちの芽」から始まったのです。細胞の上に細胞を重ね、発達し続けた結果、今ここにいるあなたになったのです。——そうですよね？

14 さて、たとえば「がん」について見てみましょう。

がんは打撲傷などから始まり、そこにできる「成長物(グロース)」です。腫瘍も白内障もそうですし、これについては何時間でも語れるほど奥が深いものです。

まず、がんというのは最初ほんの小さな細胞です。そして細胞を発達させていきます。決まった形はなく、好き勝手に伸び広がります。足のように突き出したり、何かを巻き付くようにしたり——赤いがん、黒いがん、肉腫など、種類はさまざまです。なぜならそれは「霊」であり、霊には形がないからです。

「えっ、がんが霊ですか？」とあなたは言うかもしれません。

「はい、その通りです。」私はそれが「いのち」であり、そして悪魔によるものであることを証明できます。古臭い言い方に聞こえるかもしれませんが、世界にある病のうち、悪魔が原因でないものは一つもありません。病は悪魔から来るものです。病は罪の直接または間接的な結果です。あなた自身の罪でないかもしれませんが、あなたが相続したものかもしれません。罪が入る前には病はありませんでした。罪が入ったあと、病は罪の「属性」として現れるようになったのです。

15 では、この「がん」をよく見てください。

たとえば、私の手の上に、としましよ。今は何もありませんが、いつかできるかもしれません。そうしてこの手の上に腫瘍——がん——ができたとしたら、それは「別のいのち」なのです。確かに細胞ではありますが、あなたの本来の細胞とは違う細胞を増殖させる「別のいのち」がそこに入り込んでいるのです。

これは、あなた自身が最初「いのちの小さな芽」から始まったのと同じことです。人間の身体をどれだけ分解していても、最終的には一つの細胞に行き着きます。その小さな細胞のさらに奥には「霊」があるので、なぜなら、それには「いのち」があるからです。

あなたの「いのち」は神から来ました。しかし、この身体の中に「死のいのち」として入り込んできたもの——それが「がん」と呼ばれるものです。では、それは誰がもたらしたのでしょうか？それは悪魔です。

イエス様ご自身がそれを「悪霊」と呼ばれました。ですから、私も説教者として聖書のことばそのままに、それを「悪魔」と呼びます。聖書が正しいのです。

16 今日、耳が聞こえず口もきけない人を見ますと、医師はこう言います。

「彼の声帯は死んでしまっています。鼓膜の奥の神経も死んでいます。」

「それは何が原因ですか、先生？」

「分かりません。高熱のせいか、何かが原因でその部分だけ死んだのでしょうか。」

しかし考えてみてください。なぜ神経全体が死ななかつたのでしょうか？その部分だけ死んだのです。

イエス様はそれを何と呼ばれたのでしょうか？「耳しい霊(聾の霊)」と呼ばれましたね。イエス様が聾啞

の霊を追い出されたとき、その人は聞こえるようになり、話せるようになりました。

これは、ちょうど私の手の周りに透明な輪を巻きつけて血流を止めているようなものです。壇上に上がってくる耳の聞こえない方や話せない方が、祈られたあとには聞こえるようになり、話せるようになって帰って行くのをご覧になったでしょう。

では何が起きているのでしょうか？

壇上に来る男性がいます。耳が聞こえません。何夜も続けてご覧になったでしょう。女性も同じです。周りを見回しています。耳の中では何が起きているのでしょうか？

もし医師が、その神経を圧迫しているものを取り除けるのであれば、それは素晴らしいことです。それが彼の務めであり、神が医師をそこに置かれた理由です。しかし、多くの場合、医師には何も見つけられないのです。

17 それは目に見えない力なのです。まるで、私の手の周りに透明な帯を巻きつけて血流を止めているようなものです。どれほど軟膏を指先に塗っても、その帯が血の流れを止めているかぎり癒えることはありません。その帯を取り除かなければならないのです。

さて、その「帯」は、いま話している耳の聞こえないケースでは「霊」なのです。目に見えない「人格(パーソン)」です。そしてそのものが追い出されると、自然の治癒力が働きはじめ、人は聞こえるようになるのです。

がんの場合も同じです。がんは身体の中で「からだ」を持ち始め、どんどん大きくなり、最後には「あなたの命を奪う」というただ一つの目的に向かいます。

自然界のすべては霊的なものの反映だと、先ほど私は申しました。あなたもそう信じておられますね？

18 では、聖書の中から少しお見せしましょう。これを知っておけば混乱しなくてすみます。教える時間はありませんが、見てください。

たとえば、赤ちゃんがこの世に自然な誕生をするとき、身体から出る三つの要素があります。最初は「水」です。そうですね？次に「血」です。そうですね？そして「いのち(霊)」です。そうですね？——水・血・霊。この三つで完全な誕生が成り立っています。

同じように、人が神の御霊によって新しく生まれるときも、イエス・キリストの御体から流れ出た三つの要素を通して生まれます。それは「水」「血」「霊」です。そうですね？主のわき腹が刺し貫かれたとき、水と血と霊が流れ出ました。この三つは一つです。

私たちはこの三つを通っていきます——義認、聖化、そして聖霊によるバプテスマを通してキリストの御からだの中に入れられるのです。この三つが新生の道筋です。

自然な誕生を形づくるのがこの三つであるように、霊的な誕生を形づくるのもこの三つです。つまり、自然界にあるものはすべて霊的なものを映し出しているのです。

19 さて、がんはこの「保管庫」あるいは「打撲した箇所」に入り込み、そこで「からだ(体)」を持ち始めます。そして血を吸い始めます。その目的はただ一つ——あなたの命を奪うことです。

医師はそれを切除することができます。しかし、もしほんの一かけらでも残っていれば、そこから再び成長しはじめます。

ですから、もし医師が手術によって完全に切り除けるなら、それは非常に良いことです。彼はそれを取り除きます。しかし医師の方法というのは、あくまで「からだ」に対するものであり、あなたが「がん」であるとするなら、あなたという存在(がんの細胞)を地上から取り除いてしまうだけなのです。

一方、「神の癒し(御業による癒し)」は、その「からだ」そのものを扱うものではありません。その「からだ」に宿っている「いのち」に対して働きかけるのです。もしあなたが「がん」であり、私が「地球を癒す」立場だとするなら、私はあなた(がん)のからだから「いのち」を呼び出すのです。

20 そこに、その「からだ」が横たわっています。いのちがその中にあってもなくても、その「からだ」は自然な

姿のままです。形も機能もすべて揃っています。

ところが、多くの人々は「神の癒し(御業による癒し)」を正しく理解していません。そのために癒しを受け取れないことがあるのです。

集会であなたも何度も見てこられたでしょう。盲目の方がここに上がってきます。そして「盲目の霊」が追い出されます。そうすると、長年聖書を読めなかった盲目の方が、その場でこの聖書を読み始めることがあるのです。白内障の方が、壇上を降りながら聖書を読み、喜びにあふれることもあります。

しかし、3日後に再び元どおりの盲目に戻ってしまう人もいます。これは自然の経過として当然のことなのです。

21 ある女性が、がんを抱えて壇上に上がってきました。すると突然、何かが彼女に触れ、「ああ、分かりました!」と叫びます。聖霊が彼女の病を明らかにし、何が問題であるか、どうすればそれを取り除けるのかを示され、そして神の祝福が彼女の上に宣言されます。彼女は心から信じ、喜びに満ちて帰っていきます。

家に帰った彼女は食事を始め、「私は大丈夫、すっかり元気です」と言います。

ところが数日後、再び体調が悪くなります。医師はこう言うのです。「だからあの狂信的な集団には近づくなど警告しただろう?」と。

けれども実際には、それこそが世界で最も確かな「癒しのしるし」なのです。その女性はすでに癒されているのです。

22 さて、何かが死ぬとどうなるでしょうか……。ここに獵師をしている方はどれくらいおられますか?手を挙げてみてください。——はい、何人か兄弟がおられますね。動物を仕留めたことがある方、あるいは精肉に携わる方、または葬儀に関わる方ならご存じでしょう。

からだから「いのち」が出て行ったとき、その肉体は縮み始めるのです。

たとえば葬儀屋の場合、亡くなった方から義眼や入れ歯を一時的に外しておきます。なぜなら死後およそ七十二時間、からだは縮むからです。

それから防腐処理を施し、整えたあとにもう一度義歯などを戻すのです。しかし放っておけば、そのからだは確かに縮み始めるのです。

23 道路で小さな動物が轢かれているのを見たことがありますか?その小さなからだはどうなりますか。

鹿を仕留めて秤に乗せ、重さを量って仲間に伝えるとしましょう。けれども翌朝には、同じ鹿を量ると数ポンドは軽くなっています。分かるでしょう?からだは縮んでいくからです。確かにそうです。

しかし、その鹿を数日そのままにしておくとうどうなるでしょうか。道路に倒れた小犬でも同じです。やがてそのからだは腐敗しはじめ、膨れ上がっていきます。細胞が外へ外へと押し出され、ついにはその小犬は、生きていたときよりも大きく、重くなってしまいます。

人間のからだも同じです。大きく膨れ上がっていきます。——これこそ、がんがすることです。白内障がすることです。腫瘍がすることです。

しかしもし、その「いのち」が——すなわち、イエス・キリストのカルバリーにおける死と身代わりの苦しみによる力によって——取り除かれたならば、その悪霊はいのちを失うのです。

神はこう仰せられました。「わたしの名によって、彼らは悪霊を追い出す」と。そうです。神は神であられる以上、偽りを語ることはできません。必ず真実であられます。ですから主はこう言われたのです——「わたしの名によって、彼らは悪霊を追い出す」と。

では、その「彼ら」とは誰でしょうか?——信者たちです。

24 さて、信者の皆さん——ここに問題があります。

それは、あなたが「主から与えられた権利を大胆に取る」ことを恐れている、ということです。悪魔は実際に追い出されるのに、あなたがそれを信じ切れないのです。悪霊が出て行くと、数日のあいだは良くなっ

たように感じます。しかしやがて「また具合が悪くなった」と思うのです。実際のところ、ほんとうの癒しの場合——奇跡でない限り——七十二時間ほどでそういう経過をたどるのです。

ここで覚えておいてください——「奇跡の賜物」と「癒しの賜物」とはまったく別のものです。これは二つの異なる賜物なのです。

通常の「癒しの過程」では、祈られた人は最初の数日はとても良くなります。しかしその後、急に悪化したように見えるのです。なぜでしょうか？それは、体の中にある大きな腫瘍やがんの塊が、すでに「死んだ組織」になっているからです。そこにはいのちがなく、やがてそれが膨れ上がり、腫れてきて、ひどく気分が悪くなるのです。

なぜそうなるのでしょうか？——心臓が血を全身に送り出し、その血が身体を清めているからです。血液が巡るたびに、その「死んだもの」にも触れていくのです。ですから発熱が起きます。歯に膿がたまったときに熱が出るのと同じです。どんな感染も必ず熱を生じさせます。

25 さて、体の中に「死んだ肉の塊」が残っていたらどうなるでしょうか。——まるで死の淵をくぐるような経験をすることになります。ですが、その時こそ神に賛美をささげるべき時なのです。そうです、決して信仰を揺るがしてはなりません。あなたは確かに癒されたのです。それが真理です。

以前、私たちが集会で祈った後に人々の体から排出されたがんを一年分集めていたことがありました。瓶や壺に収めましたが、あまりに数が多く、壇上に並べきれないほどでした。医師の署名が入ったものもありました。これは事実です。

腫瘍が取り除かれると、それは死んでしまい、体から離れていきます。それを留めていた癒着や繊維質も外れ、体から出ていくのです。もし体がそれを排出できれば問題ありません。しかし排出できなければ、その死んだ組織が体内にとどまり、あなたは再び病に苦しむことになります。

26 分かりやすく言えば——子どもにも分かる言い方をするなら——その「死んだもの」は体の中で腐っていくのです。その腐ったものが体の中に残っているのです。するとどうなりますか？

心臓は血を送りながら体を浄化しています。その血流がその腐敗物を拾って全身に巡らせます。だから吐き気や頭痛、ひどい倦怠感に襲われ、立っていられなくなることもさえます。

その時、多くの人——特に信仰が弱い人はこう言います。「ああ、癒しを失ってしまった」と。

しかし、神はそんなお方ではありません。癒しは失われるものではないのです。イエス様が買い取ってくださいましたものであり、あなたのもものだからです。

イエス様がペテロのために祈られた時、こう仰せられました。「わたしはあなたの信仰が絶えないように祈った」と。彼の道徳ではなく(道徳は失敗しました)、信仰が絶えないように祈られたのです。

ですから、あなたが通っているのは癒しが「失われた」のではなく、「癒しの過程」なのです。これから私が見た限りのことをお伝えします。「見せる」と言いましたが、私が何かを見せられるわけではありません。ただ、私が霊的な領域で見てきたことをできる限りお話しする、という意味です。

27 それはこういうことです。

がんが追い出されるとき——すなわち、それが「イエス・キリストの御手の導きによって、しるしと不思議をもって働かれている」という明らかな証しがあり、その悪霊が「去った」と宣言され、あなた自身も「去った」と感じるとき——その瞬間、確かにそれは出て行っています。

しかし、そのあと2~3日して、もしあなたが再び疑いはじめると、最初にその悪霊を追い出した「信仰」が崩れ、今度は「不信仰」がそれを呼び戻してしまうのです。

聖書はこう言っています。

「汚れた霊が人から出て、乾いた所をさまよい歩き、戻ってくると、以前よりも悪い七つの霊を連れてくる。その人の最後の状態は初めよりもはるかに悪くなる。」(マタイ12:43-45 参照)

これは真理です。そして、その状態が七倍悪くなると、その人はついには死に至ることさえあるのです。

28 毎晩、私が必ず言っていることを覚えていますか?—「行って、そして何をしないのか?」

「もう罪を犯してはならない」です。

では「罪」とは何でしょうか?—そう、「不信仰」です。

「行って、もう不信仰になってはならない。さもないと、もっと悪いことがあなたに起こる」と主は言われました。分かりますね?

そしてヨハネによる福音書3章23節から(実際にはヨハネ5章の箇所に近い表現です):

あなたがたはヨハネのところへ人を遣わし、彼は真理について証しました。

しかし、わたしは人からの証しを受けません。わたしがこれらのことを言うのは、あなたがたが救われるためです。

彼は燃えるともしびであり、輝いている光でした。そしてあなたがたはしばらくの間その光のうちに喜ぼうとしました。

しかし、わたしにはヨハネの証しよりも大いなる証しがあります。父がわたしに果たさせるために与えられたわざ、そのわざがわたしについて証しをし、父がわたしを遣わされたことを示しているのです。

—イエス様ご自身が語られたこの御言葉こそ、信仰が「証し」によって裏付けられることを示しているのです。

29 そして聖書を知る者なら誰でも理解していることですが—贖いのわざそのものは、カルバリーにおいてすでに完全に成し遂げられました。それはイエス・キリストによってです。

しかし、主は弟子たちに使命を与えられました。「この福音を全世界に伝えよ」と。そうですね?

ですから、父が御子に託されたそのわざは、教会の時代を通して再び教会の中に現され続けるべきものなのです。

—さあ、頭を垂れて祈りながら、神が私たちに信じる力を与えてくださいますように。

30 天のお父様、私たちを闇の中に置き去りにされなかったことを

感謝いたします。ああ、もしこの世が、御言葉をもつれさせ、

人の神学や理屈だけに頼るしかなかったなら、どれほど惨めであった

ことでしょう。しかし私は、心の奥底から感謝します。

あなたがこう言われたからです—

「わたしはあなたを孤児にはしない。再び来て、世の終わりまで

あなたがたと共に、あなたがたのうちにいる」と。

神よ、御霊を心に受けた者はあなたを知っています。

彼らはあなたの力の証しによって、あなたを知っているのです。

その時、彼らは神の息子・娘となり、すべてのことが

可能であると信じます。

今夜、父よ、どうかこの会場にいるすべての人を、そのような

信じる者としてください。

私たちがあらゆる教えや神学を脇に置き、あなたの御言葉に立って、

あなたの約束を「そのまま」信じ、説明しようとせず、

ただあなたがおっしゃった通りに受け取ることができますように。

主よ、どうかそれをお与えください。

そして今、神よ、私をお助けください。

天の聖霊がこの壇上に臨み、

今夜この教会の中で、牧者と信徒のうちに、

イエス・キリストの御生涯を現し、再現してくださいますように。

羊飼いなる主が私たちをいこいの水のほとりに導いてくださいますように。

これを、御名と御栄光のために祈ります。

アーメン。

31 少し長くなってしまいましたね。どうかお許しください。今夜は少し肌寒いので、あまり気にならないでしょう。そう信じています。——では、病の方々のために祈りましょう。

ビリー、あの祈りのカードの番号は何番でしたか？C組でしたね。会場に入ってきたときに聞いたのですが、忘れてしまいました。……そうですね、Cの1から100までですね。

では……祈りのカードC-51をお持ちの方はいらっしゃいますか？確認してください。C-51です。……会場におられますか？——ああ、姉妹ですね。ありがとうございます。では、C-52の方。続いて立ってください。C-53、54、55、56、57、58、59、60。最初の10名の方、できるだけ早く前に来てください。

兄弟姉妹、「主よ、みもとに近づかせたまえ(Abide With Me)」を奏でただけいただけますか。お願いします。——はい、案内係の方々もお手伝いください。

皆さん、どうか注意してください。呼ばれたとき、隣に座っている方の祈りのカードも確認してください。耳の不自由な方や、立ち上がれず座ったままの方がいるかもしれません。その方々を助けて、前に来られるようにしてあげてください。

32 もしその人が立ち上がれないなら、手を振るなど合図してください。案内の兄弟たちが抱えて連れてきてくれます。

そして忘れないでください。私にはあなたを癒す力はありません。ただ、あなたのために祈ることができるだけです。

——はい、だいたい十人ほどおられますね。では次です。C-50から60番まで。続いてC-60から70番まで。C-61、62、63、64、65…70まで。立ち上がってください。

次にC-70から80番の方々。続けてC-80から90番まで。C-90から100番まで。C-91…はい、90から100番の方々、立ち上がってください。

私たちの主イエス・キリストの驚くべき恵みは、なんと素晴らしいものでしょう。

では、皆さんが列に並んでいる間、しばし静かに頭を垂れて祈りましょう——

「主イエスよ、私たちを助け、私たちがあるべき姿に造り変えてください。」

敬虔な心をもって、全能の神、私たちの主イエス・キリストの父なる神に近づきましょう。

さて今から、このハンカチのために祈ります。

33 愛する天のお父さま、

今宵、病める人、必要を持つ人々のために捧げられたこのハンカチをあなたの御前にお持ちします。

神よ、あなたはすべての人の必要をご存じです。今、天から私たちを見下ろし、どれほどの「信仰」が見いだせるかをご覧ください。イエス様もこう言われました——「わたしが再び来るとき、果たして地に信

仰を見いだすだろうか」と。教会や義や教師を見つけるかどうかではなく、「信仰を見つけるかどうか」と言われたのです。

ああ神よ、なんと尊いものでしょう、この信仰は。

今、多くの人がこのハンカチを送っています。あなたは彼らの状況を知っておられます。今夜、あの小さな部屋で盲目のまま座っている年老いた父。傍らのベッドには、手足の不自由なお母さんが横たわっている。なんと痛ましい状況でしょう！

そしてここには、自分の愛する人にこのハンカチを送る娘もいます。あの水頭症の小さな赤ん坊……神よ、あなたはすべてをご覧になっておられます。私はその一人ひとりのために祈ります。

あなたはかつてイスラエルをエジプトから呼び出されました。あなたの御子を、御使いに導かれて、エジプトからパレスチナまで旅をさせられました。そして紅海のほとりに追い詰められた時——

ある人はこう書きました。「神が火の柱を通して怒りのまなざしで見下ろされたとき、海は恐れて分かれた」と。ハレルヤ！

主よ、感謝いたします。あなたはいつも変わらぬ神です。あの海は、あなたの御道が通るために退いたのです。

神よ、今夜も血の道がすべての病室を通っています。ハレルヤ！

今、私たちはあなたの御前に来て、これらのハンカチに手を置きます。どうか再び火の柱を通して御使いが見下ろしてくださいますように。これらのハンカチが置かれるとき、あらゆる病が恐れて退き、信じる者が「約束の地」——健やかに繁栄するという御言葉の約束へ——と進んで行けますように。

主よ、この願いをかなえてください。

これは聖パウロの時代からの証しです。私たちはパウロその人ではありませんが、人々は彼の体に触れたハンカチを病人に置き、彼らは癒されました。けれども実際にそれをなされたのは主イエス、あなたご自身でした。

神よ、どうか憐れんでください。そして私は祈ります。これらのすべての人が癒されますように。この祝福を、主イエス・キリストの御名とその栄光のために祈ります。

アーメン。

34 バクスター兄弟……はい、マツソン兄弟、あなたも……。

皆さん、今こそ信仰の壁を築き、心から信じてください。心から信じる方はどれくらいいらっしゃいますか？——神があなたを祝福してくださいますように。私の真剣な祈りはこうです——「神よ、ここにいる皆をお守りください。助けてください。すべての人を真の信じる者にしてください。」

まだ祈りの列が始まる前から、私は聖霊——いや御使いが——この会衆の上に臨んでいるのを見ます。祈りの列が始まる前に、皆さんは心から信じますか？

もし聖霊が今、この会衆の中に差し伸べられ、天からのしるしを示されるなら、あなたは心から信じますか？

そこに座っている一人の姉妹がいます。その方には心臓に重い病を持った小さな娘さんがいます。彼女は非常に重く、ベッドから起き上がることさえできません。そうでしょう、姉妹？どうぞお立ちください。お嬢さんは十二歳くらいでしょうか？——そのくらいですよ？

姉妹、あなたは祈りのカードをお持ちではありませんね？——ええ、持っておられません。ですから祈りの列には呼ばれません。そのまま立っててください。あなたの目の前で、その子は弱っていついています……。

35 全能の神よ、どうか憐れんでください。

私はいま、ヤイロのひとり娘——十二歳ほどの、両親にとってただひとりの子——のことを思い起こしま

す。この母親もまた、今夜、憐れみを求めてここに来られました。ベッドに横たわるわが子を思い、心は張り裂けんばかりです。

神よ、どうかあの小さな娘を癒してください。ペテロを牢獄から解き放った御使い——ヨハネ・マルコの家で人々が祈っていたとき、輝く大いなる光とともに現れたあの御使い——が、今夜その家に行って、この娘を心臓の病から解き放ってくださいますように。彼女を元気に歩かせてください。この祝福を、イエス・キリストの御名によって、そしてその栄光のために祈ります。アーメン。

姉妹、神があなただを祝福してくださいますように。子どものもとに戻ったら、あなたの左手を娘の胸に置き、右手を神に高く上げて、カルバリーでああなたの子のためにすでに成し遂げられた御業を感謝してください。アーメン。——神を信じなさい。

……はい、では次のご婦人、もう少しこちらへお越しください。

あなたは心から信じますか？

——「はい、信じます。」

聖書が証しているイエス・キリストのことばが真理であると信じますか？

——「はい。」

そうですね。私は、あなたの鼻に小さな腫瘍のようなものが見えています。誰の目にも見えるものですし、それが取り去られることを望んでおられるでしょう。

36 神にはそれがおできになります。

けれども、今夜あなたが最も心配していることのひとつは、ひどい神経過敏と不安定さです。そして、あなたは関節炎にも苦しんでいます。そうでしょう？

さらに、あなたは手術を受けられましたね。直腸の腫瘍の手術でした。その後ずっと、完全には回復していません。そうですね？

——あなたは癒されたいのですね？

では、私がもう一度尋ねます。今すぐ癒されたいですか？

もしそうなら、手を挙げてイエス・キリストを「癒し主」として受け入れてください。そうしますか？……そうですか。

では、イエス・キリストの御名によって行きなさい。癒されなさい。アーメン。

さあ、喜びながら帰りなさい。

——皆さんで言いましょう、「神に感謝します！」

姉妹、あなたは心から信じますか？

あなたは決して盲目にはなりたくないのですね。あなたの視力は衰えており、眼球が扁平になってきて、このままでは視力を失ってしまうところです。——癒されたいと願っていますね？ ではこちらへ。

目に視力を与えた神は、あなたに再び視力を与えることができます。

主よ、この女性を癒してください。御子イエス・キリストの御名によって、この状態が去るように祈ります。アーメン。

さあ、行きなさい。——信じて受け取りますか、姉妹？

行きなさい。そして「主よ、私を癒してください感謝します」と言いながら帰ってください。

37 さあ、姉妹、こちらへおいでなさい。

あなたは、もし今神が助けてくださらなければ、長くここにいられないことを自分でわかっておられます

ね。あなたにはがんがあります。そうですね？

しかし、この壇に上がってきたとき、何かがあなたに語りかけはじめましたね？そうでしょう？

では、信じなさい。それは終わるでしょう。神があなたを祝福してくださいますように。行きなさい。そして神の平安があなたと共にありますように。アーメン。

愛する姉妹よ、この命の第一の敵である心臓病にかかっておられますが、神はそれを癒すことがおできになります。信じますか？今、それを受け入れますか？受け入れますね？

ちょっと待ってください、姉妹。あなたの病は何でしたか？——心臓の病でしたか？

そうです。あなたも心臓の病ですか？あなたは神が癒してくださると信じますか？信じますね？ではお立ちください。今、あなたがたお二人とも癒されることが出来ます。家に帰りなさい。神があなたを祝福されますように。

わかりますか？悪霊は互いに叫び合い、互いに助けを求めようとします。けれども神だけが唯一の救いです。神があなたを祝福されますように、姉妹よ。それは神の御前でへりくだることです。あなたには婦人科の病がありますね、姉妹？

もし私が「イエス・キリストはあなたを1900年前にすでに癒された」と告げたら、あなたはそれを受け入れますか？受け入れますね？では、主イエスの御名によって行きなさい。主があなたを癒されます。

あなたは、主がこのがんを取り去ってくださると信じますか？

主イエスよ、あなたがそれをかなえてくださいますように、イエス・キリストの御名によって祈ります。どうかこの男性を癒し、送り出してください。アーメン。

神があなたを祝福してくださいますように。行きなさい。何も疑ってはなりません。数日後にその信仰を私たちに示してください。——はい、次の方どうぞ。

38 「こんばんは、兄弟。ご自分の病を乗り越えたいですか？その関節炎が癒され、家に帰れるようになりたいですか？ どれほど長く患ってきたかは問題ではありません。もし今ここで、イエス・キリストがあなたを完全に癒し、自由にしてくださいると信じるなら、それを受け入れますか？

では手をこのように挙げて、『私は信じます』と言ってください。

両手を打ち合わせて『主よ、私は信じます』と言ってください。

足踏みしながら『主よ、私は信じます』と言ってください。

さあ、行きなさい。あなたは自由です。神があなたを祝福してくださいますように。癒されなさい。はい、兄弟。」

「おお、あなたですね。今は私の声が聞こえますね。あなたの耳の悪さや前立腺の問題、それが神経をすり減らしていました。主はひとつのことだけを癒すのではなく、すべてを癒してくださいます。乱視も耳の病も全部です。あなたはこの耳が何年も聞こえなかったのですね？」

——「45年か50年です。」

「はい。けれども、今は私の声が聞こえるでしょう？」

——「はい。」

「『アーメン』と言ってみてください。」

——「アーメン。」

「もう耳は聞こえています。あなたはもう聾ではありません。主が癒される時、完全に癒されるのです。」

「はい、姉妹、こちらへ。あなたも癒されたいのですね。主イエスよ、この姉妹を癒してください。イエス・キ

リストの御名によって、壇上を降りながら喜びにあふれるようにしてください。アーメン。神があなたを祝福されます。もう耳に詰めていた綿を取って、家に帰っておやすみなさい。あなたは大丈夫です。」

「さあ、兄弟、こちらへ。心から信じますか？」

主よ、この男性を癒してください。今、御霊が彼に臨み、ここから喜びと健康を持って帰れますように。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

さあ、神に感謝しながら行きなさい。それはあなたから去りました。二度と戻ってきません。」

「皆さんで言いましょう、『主イエスに栄光あれ!』」

信じますか？ 信仰を持っていますか？」

39 「あなた、この隣に座っている女性をご存じですか？こちらの姉妹を？ さきほどあなたが癒されるのを見て、この方はとても驚かれました。……そうです。あなたの血管には詰まりがありましたが、神はあなたを癒されます。信じますか？」

姉妹よ……彼女のために信じますか？ ——あなたは癒されました。神があなたを祝福されます。必要なのはただ一つ、信仰を持ち、神を信じることです。神はお二人を癒されます。信じますか？ 今この瞬間、お二人とも癒されたと信じますか？——では、神が祝福されます。あなたが受け取ったのです。アーメン。」

「はい、姉妹。今ご覧になったことについてどう思いますか？これは神からのものだと信じますか？ ——あなたは信じますか？ 彼があなたの救い主であると信じますか？ そして、ある日あなたを迎えに来られると信じますか？ ——信じますか？ その日まで、主はあなたが幸せに生きるための備えをしてくださったと信じますか？」

——「はい。」

「そうです。」

まあ……あなたは非常に神経が弱く、不安定でしたね。発作のように力が抜けてしまい、長く立っていらなかった。そうでしょう？ それはすべて手術の結果です。あなたは肺を一つ摘出されましたね？ そうですね？

けれども今、神があなたの力であると信じますか？ ——では、心から主を賛美して帰りなさい。もうベッドに戻る必要はありません。神があなたを祝福されます。」

「皆さんで言いましょう——『神に栄光あれ!』」

(会衆:「神に栄光あれ!」)

40 「ああ、主がどれほど癒してくださることでしょう……。どうぞ、兄弟。もしこの瞬間、皆さんが信じるなら、ここにいるすべての人を癒してくださるのです。本当ならば、祈りの列を通る必要などないのです。皆が癒されるのです。」

兄弟、あなたと私は初対面ですね？お互いを知りません。けれども、神だけは私たち二人を知っておられます。私はあなたを知りませんし、あなたも私を知りません。けれども、私たちは今、主の御前に立っていることを分かっています。

あなたは胃の病を持っていますね——潰瘍のある胃です。そして、あなたは説教者です。そうですね？これからは神の癒しを宣べ伝えなさい。何でも好きなものを食べてよいのです。神があなたを祝福されます。アーメン。」

「姉妹、あなたは信じますか？ あなたは長年、神経症に苦しんできました。けれども、嵐の海を静められたイエス・キリストが、あなたの神経をも静めてくださいます。神があなたを祝福されます。さあ、心から信じて行きなさい。癒されました。神があなたを祝福されます。」

「さあ、姉妹。あなたは心も体も魂も、すべてをもって信じますか？——はい？ あなたは今、何かが自分に起こっていることをはっきりと感じていますね。そのまま信じ続けなさい。そうすれば、心臓の病はあなたの人生から永遠に去っていきます。今、その病は去りました。今の信じ方を持ち続けるなら、そのままずっと癒さ

れたままです。神があなたを祝福されます。」

「皆さんで言いましょう——『神に感謝します!』」

41 「こんばんは。あなたは心から信じますか? イエス・キリスト、神の御子が今ここにおられ、あの昔と同じように人々の思いを見抜き、あなたの人生を御前で解き明かし、ここで何が問題なのかを示すことができになると信じますか? あの井戸の女に夫のことを告げたように……。」

しかし、あなたの場合は夫の問題ではありません。あなたの背中のことです。——癒されました。行きなさい。神があなたを祝福されます。」

「皆さんで言いましょう——『神に感謝します!』 神を信じましょう。」

「さあ、姉妹、こちらへ。私たちの主イエス・キリストは決して敗れません。負けることはできません。キリスト者の皆さん、これを理解してください。地上におられたイエスは、自分を『癒し主』と称したことは一度もありませんでした。彼はただ、父が示されることだけを行うと言われたのです。『子は自分からは何事もできず、父のなさることだけを行う』と。」

「もちろん、彼が何も見ずに癒された人もいました。ある女性は彼の衣の裾に触れました。彼は言われました——『あなたの信仰があなたを救ったのです』と。」

42 「ある日、二人の盲人が——(少し休みながらお話しています)——その二人の盲人が通りで『憐れんでください』と叫びながらついて来ました。しかし主は彼らに目を留められませんでした。なぜなら父が何も示されなかったからです。」

それでも彼らは家の中までついてきて、そこで主に憐れみを求めました。すると主は彼らの目に触れ、『あなたがたの信仰の通りになれ』と言われました。そうでしょう?

スロ・フェニキアの女にも、主はこう言われました——『あなたが信じたとおりになれ』と。

けれども、父が何かを示されたときは、主はそれをそのまま宣言されたのです。

よく見てみましょう……主はどこに行かれても、愛とあわれみに満ち、人々を深く愛されていたと信じますか?——そう信じますね。

しかし、一見するとそうは見えない場面もありました。例えば、ベテスダの池を通られたときのことで。そこには大勢の病人、足の不自由な人、盲人、手足の萎えた人々が、水の動くのを待って横たわっていました。」

43 「イエスは、その病人たち皆のすぐそばを通られました。ひとりも触れられませんでした。愛に満ち、あわれみに満ちたお方——けれどもそれ以上の方でした。イエスは神であられました。『神はキリストにあって世をご自分に和解させておられた』のです。そう信じますか?

あの偉大なるインマヌエルが、足の不自由な者、病に苦しむ者の群れの間を通り過ぎられ、一人も癒されませんでした。

しかし主は知っておられました——そこに、三十八年間病を患い、床に伏している一人の男がいることを。そうですね?

考えてみてください。水頭症の赤ん坊、関節炎で体が縮んでしまった哀れな老人、子どもを抱えた盲目の母……そのような人々のそばをすべて通り過ぎて——そして、その床に寝ていた一人の男だけを癒されたのです。その病気で死ぬことはなかった男、三十八年間その病にかかっていただけの男を。

なぜでしょう?——父がその人のことを示されたからです。」

44 「そして主はその一人を癒され、他の人々のそばを通り過ぎ、ご自分の務めに向かわれました。ユダヤ人たちは主に問いました。同じ章の19節で、主はこう言われました——

『まことに、まことに、あなたがたに言う。子は自分からは何事もできず、父のなさることを見てするほかはない。父がなさることはすべて、子もそのとおりに行う。父は働いておられる、だからわたしも働く』と。」

「わかりますか？ さて、もし彼が死からよみがえられたのなら、彼はこうも言われました——『わたしのするわざを、あなたがたも行う』と。そうですね？

彼は人々の思いを見抜き、その考えていることを知ることができました。

では今、もし彼が死からよみがえり、教会のうちに生きておられるなら——それはこの壇上にいる私のことではありません。私はそのからだの一員にすぎません。あなたがたこそ教会です。私たちは皆、ひとつの信じる者のからだなのです。」

「『でもブラナム兄弟、私はメソジストです。けれども新しく生まれ、聖霊を受けました。』——あなたは信じる者です。あなたはその一人です。

『私は長老派です、バプテストです、あるいは他の……』——それは問題ではありません。聖霊を持っているなら、兄弟姉妹、あなたは私の兄弟姉妹であり、神の息子、神の娘なのです。」

45 「そしてその御霊は、私たちを通して働くことができます。ところが、私たちの教師たちの多くは、このことから私たちを奪ってしまいました。本来なら、もっとはるか先まで進んでいたはずです。

どうやって携挙にあずかる信仰を持てるでしょうか……。あなたは教会がいつの日か携挙されると信じますか？

『生きて残る私たちは、眠った人々に先立つことはない。神のラツパが鳴り響くとき、キリストにあつて死んだ者たちがまずよみがえる』——こう書かれています。

では、癒しの信仰さえ持っていないのに、どうして携挙の信仰を持てるでしょうか？ 私の言うことを聞いてください！

まもなく、イエス・キリストの教会がその栄光の姿に立ち上がる時が来ます。しるしと不思議がそこかしこにあふれるでしょう。私はその時がすでに近いと信じます。アーメン。」

「こんにちは、姉妹。私はあなたを存じませんし、あなたも私を知りません。私はあなたのことを何も知りませんが、神はご存じです。これはちょうど、私たちの主がサマリアの女と話しておられた時と同じ状況です。彼女は異なる民族の女でした。サマリア人はユダヤ人とは別の民族だったのです。

ちょうど今、私たちが二つの人種であるように——私は白人で、あなたは黒人の姉妹ですね。」

46 「さて、イエスがあの女に話しかけられた時……。

『ブラナム兄弟、なぜそんなに人々と話をするのですか？ なぜそこまで話すのですか？』とあなたが言うかもしれませんね。——それは、私が人々と話せば話すほど、主がより多くを示してくださるからです。

もし神が死からよみがえり、いま御教会のうちに生きておられ、そして『わたしのする業を、あなたがたも行う』と約束されたなら、私たちもそのわざを行うはずです。

会衆の皆さん、私が言いたいことがわかりますか？ 私は、これは何か馬鹿げたことではなく、まさしく聖書に書かれている「主の御言葉そのもの」だということを、皆さんに分かってほしいのです。

これはほとんど説かれてこなかった真理です。人々はイエスが来られたとき、それが誰であるかを知るべきでした。しかし彼らはイエスを「ベルゼブブだ、大きな占い師だ」と呼び、拒んでしまいました。けれどもイエスは占い師などではありませんでした。イエスは神ご自身でした。

そして今日、神の奇跡の力を信じる人々は、狂信者だと思われています。しかし主はこう言われました——『家の主人をベルゼブブと呼んだなら、そのしもべたちのことはどれほどひどく言うことだろう』と。

イエスがあの女と話され、その霊のチャンネルをつかんだとき、主は彼女に何が起きているかをご存じでした。彼女は姦淫の罪の中に生きていました。イエスは彼女にそれを告げられました——『あなたには夫が五人あった』と。

さて今、イエスは死からよみがえり、今夜この場に生きておられます。主はここで、あの奇跡を再び行うことができになります。——そうでしょう？ 信じますか？」

47 「さて、あなたの病ですが——そしてイエス・キリストは今ここにおられます——

あなたの病は婦人科の病です。しばらく前から患っておられますね。それは出産が原因でした。そうですね？ お子さんを産んだ時です。あなたには男の子がいますね。三歳くらいの小さな坊やです。私は彼が走り回っているのが見えます。そうですね？

そして、あなたに起こっているもう一つの重い問題があります。それは出血、出血が時に何カ月も続くことです。二、三カ月続くこともありますね？ そうでしょう？

あなたは、あの女がイエスの衣の裾に触れて癒されたことを信じますか？ 今、あなたの信仰が主に触れていると信じますか？——神があなたを祝福されます。では行きなさい。出血は止まりました。神があなたを祝福されますように。」

「姉妹、何もお話ししなくても……幻を見るのは私にとっても大きな負担です。お分かりですね？ けれども、私が主にお願ひしたなら、あなたは癒されると信じますか？ ——ではこちらへ来てください。」

「天のお父さま、御子イエスの御名によって、この姉妹を癒してください。イエスの御名によって、これをお与えくださいますように祈ります。」

「さあ、神に感謝しながら行きなさい。『神よ、ありがとうございます』と言いながら行きなさい。癒されなさい。」

48 「信仰を持ちなさい。——はい、姉妹、もし私があなたに何も言わなかったとしても、あなたはなお信じますか？

あなたはとても重い病を持った年配の姉妹です。がんを患っていて、神以外には手の施しようがありません。今、信じますか？

カルバリーでのイエス・キリストの死とその打たれた傷によって、あなたは癒されると信じますか？ 今、彼があなたを癒してくださると信じますか？

では、イエス・キリストの御名によって、そのがんの悪霊を叱ります。去れ！

全能の神よ、あなたは「病人に手を置けば、彼らは癒される」と言われました。この御言葉を、この姉妹の上に実現してください。御子イエスの御名によって祈ります。アーメン。

さあ、姉妹、喜びながら行きなさい。そのがんを否定し、もうかかわりを持たないのです。心から神を信じなさい。」

「あなたも同じ目的で、同じことを受け取りたいのですね？——今、行きなさい。神があなたを祝福されます。癒されなさい。」

「皆さんで言いましょ——『神に賛美しよう！』アーメン。」

49 「さあ、忠実でありなさい。神を信じなさい。今、できるだけ敬虔な心をもって、静かにしてください。神の御霊はとても繊細なお方です。皆さんも知っておられるでしょう。時には、動き回ることによってその働きを妨げることがあります。わかりますか？

あなた方一人ひとり、肉体の奥において超自然的な存在なのです。それをご存じですか？

『ブランナム兄弟、それは心理学ですよ』と言う人がいるかもしれませんが。そうではありません。もしそれが心理学だというなら、イエス・キリストご自身がそれを用いられたのです。なぜでしょう？主は人々を群衆の中から連れ出し、ある男を町の外に導き出して、そこで彼の視力を回復させました。そうですね？

また、主がヤイロの家に行かれたとき、小さな娘が病気で死んでいました。人々はみな泣き悲しんでいました。主は言われました——『その子は死んだのではない。眠っているのだ』と。

すると、人々は主を嘲笑い、あざけりました。ご存じですね、主が何をなさったか？——その家からみんなを外に出されたのです。そうですね？ そして、その少女をよみがえらしました。そうですね？」

50 「ペテロがヨツパから呼ばれて、ドルカスのために祈りに行った時のことを覚えていますか？(ご存じの方

は手を挙げてください。)寡婦たちがみな集まって泣き悲しみ、ドルカスを失ったことを嘆いていました。

ペテロは何をしたでしょう?—その不信仰のただ中で、彼は家の中の人をみんな外に出し、ひざまずいて祈ったのです。そうですね? そしてドルカスを立ち上がらせました。

また、シュネムの女のことを見てください。彼女の子どもが死んだとき、彼女はろばに乗ってエリシャのところに行きました。私は、ここからパウロが「ハンカチを病人に当てる」ということを思いついたのだと思います。エリシャは自分の手に杖を持っていました。彼は、自分が触れるものがすべて祝福されることを知っていました。彼は、その女が信じさえすれば奇跡が起こることをわかっていたのです。

それでゲハジに言いました—『私の杖を持って行き、誰にも話しかけず、その杖を子どもに置きなさい』と。

けれども、その女の信仰は杖にあったのではなく、預言者にあったのです。彼女は言いました—『あなたの魂が生き、決して死なない限り、私はあなたを離れません』と。」

51 「それでエリシャは、自分の腰に帯を締め直し、大きな革の帯を巻いて出かけて行きました。家に着くと、庭は泣き叫ぶ人々でいっぱいでした。

しかし、その女は子どもを預言者の寝台に横たえました。

—そうです、そこはとても良い場所でした。彼女がかつて預言者に親切を示し、備えておいた小さな部屋です。言い換えれば、彼女は彼に献げ物をし、そこに置いたのです。その部屋には小さな燭台と腰掛けと寝台があり、彼女はその預言者の部屋に赤ん坊を寝かせたのでした。」

52 「そしてエリシャは家に入ると、部屋の中を行ったり来たりしました。誰も一緒には入れませんでした。彼はひとり祈り、祈り続けました。そして赤ん坊の顔に自分の顔を重ねると、赤ん坊は七回くしゃみをして生き返ったのです。そうですね? そうです。

これは心理学ではありません、皆さん。ただ神の力そのものです。

イエスはこう言われました—『祈るとき、偽善者のように、人に見せるために長い祈りをしてはならない。密室に入り、戸を閉めて、隠れた所におられる父に祈りなさい』と。いつもそうなのです。神を信じなさい。

—はい、では、連れて来てください……。失礼、姉妹、誤解しないでください。時々、幻を見ると少し影響が出ます。大丈夫です。おわかりいただけるでしょう。

さて、例えば、あなたご自身のことですが、もし私があなたに何も言わなかったとしても、あなたは信じるでしょう? そうですね? はい、信じるでしょう? そうです。では、あなたの目は良くなるでしょう? それがあなたの一つの問題ですね。次に、あなたの胃にも問題があります。そして足にも何か問題がありますね? そうですね?」

53 「そうですね、あなたは教師か、あるいは哲学か何かを学んでいる方ですね? そうですね? では、その知識をイエス・キリスト、神の御子のもとで実践しなさい。そして、心から彼を信じると告白しなさい。そうすればあなたは癒されます。神があなたを祝福されます。アーメン。

皆さんで言いましょ—『神に栄光あれ!』

さあ、疲れなさい。叫びなさい。イエスはこう言われました—『もし彼らが黙っているなら、石が叫び出すであろう』と。

姉妹よ、信じて行きなさい。神があなたを祝福し、イエス・キリストの御名によって癒されますように。アーメン。心から信じなさい。これを信じますか?

こんにちは、姉妹。あなたはもう神経症ではありません。椅子に座っている時に癒されました。さあ行きなさい。神があなたを祝福されます。神に栄光を帰しなさい。」

54 「さあ、今、信じながら来てください。—はい、兄弟、どうぞ。もう好きなものを食べられますよ。食べたいですか?—では、その潰瘍はなくなりました。行きなさい。神があなたを祝福し、そのまま健康でありなさい。はい。」

「あなたは、あの朝ベッドから起き上がろうとして、足を引きずり、倒れそうになっていたように、もうそんなふうにしなくてもいいのです。関節炎は、もしあなたが信じるなら、すでに去りました。信じますか？——では、喜びながら帰りなさい。そして『神に感謝します!』と言いなさい。アーメン。」

55 「あなたは心から信じますか？——ハレルヤ! 敬虔でありなさい。

皆さん、覚えておいてください。悪霊が人々から出て行くとき、その霊はこの建物の中に放たれます。もし数日後に何かしらの病の症状が出て、私の責任ではありません。ここでお伝えした通りに、あなたがたが従うべきだからです。

今、この建物の中にあるすべての霊は主に従っています。悪霊は、出て行くときどこか行き場を探します。覚えていますか？ かつて豚の中に入ろうとしたことがありましたね？ そうでしょう？ ですから、敬虔でいなさい。

私が何を語っているか分からずに話しているわけではありません。信じてください。私はその感じを覚えます——その霊がこの建物の中を押し、動いているのを感じます——そしてある瞬間、それらは閉じられ、去って行きます。どこへ行ったかは分かりません。

もしあなたが不信仰で不従順なら、それを受けやすくなります。そうです。ですから、これは真実だと覚えておいてください。」

「こんにちは、姉妹。あなたが患者さんですね？——こちらへ来てください。心から信じますか？ 私を神のしもべだと信じますか？ あなたは息子さんのために来られたのですね？ 息子さんは精神的な問題を抱えています。そうですね？ あなた自身もキリストに対する信仰について悩んでいますね？ そうでしょう？

では、聖霊のバプテスマを受けてから息子さんに手を置きなさい。神があなたを祝福されますように。主イエス・キリストの御名によって、それを受けなさい。アーメン。」

「さあ、兄弟、こちらへ。あなたはその貧血の状態を癒されたいのですね？——では、行きなさい。『主をほめたたえます』と言って、受け取りなさい。癒されなさい。」

「皆さんで言いましょう——『主をほめたたえます!』」

56 「さあ、こちらへ。姉妹、あなたは心から信じますか？ 癒されると信じますか？ 私は最初、あなたが足の不自由な方かと思いましたが、実際にはとても神経が過敏なだけです。長い間そうだったのでしょうか？

喜びながら帰りなさい。そして心から『主をほめたたえます』と言いなさい。そうすれば癒されます。今、信じて行きなさい。何も疑ってはいけません。ただ手を挙げて信じなさい。」

「兄弟、あなたは信じますか？ 関節炎を癒されたいですか？ では、喜びながら帰りなさい。神があなたを祝福されます。アーメン。『主をほめたたえます』と言いながら。」

「はい、皆さんで言いましょう——『神に感謝します!』 ああ、私たちはどれほど主イエスを愛していることでしょう。」

「姉妹、あなたは信じる者ですね？ 私はそう信じます。そう信じます。——ああ、そうです！ あなたは関節炎を持っていますね？ そうです。そして腎臓にも病がありますね？ そうです。そして右の肩に腫瘍がありますね？

では行きなさい。主イエスがあなたを癒してくださいますように。」

「皆さんで言いましょう——『主をほめたたえます!』」

57 「さあ、姉妹、心から信じながらおいでなさい。あなたは、さっき腎臓の病が座っているその場で癒されたと信じますか？ ——では、そのまま進みなさい。神があなたを祝福されます。あなたはそれを受け取ることができます。」

「皆さんで言いましょう——『神に感謝します!』 この会場にいる全員が、望みさえすれば癒されるのです。」

「さあ、姉妹、こちらへ。悪霊が叫び動いています……あなたは胃の病ですね？ そうでしょう？ 癒さ

「りたいですか?」

「兄弟、あなたはそこに座って、ここにいない奥さんのことを考えておられますね。彼女は胃の腫瘍で癒されることを願っていますね? そうでしょう? もしあなたが心から、魂から、力を尽くして信じるなら(皆さん、そう信じますか?)あなたも癒されるのです。」

神があなたを祝福されます。さあ行って、好きなものを食べなさい。アーメン。」

「皆さんで言いましょう——『神に感謝します!』」

「あなたは、もしイエス・キリストを信じるなら、目が見えなくなることはありません。信じますか?——では、信じて行きなさい。神があなたを祝福されます。癒されなさい。」

58 「姉妹、癒されたいですか? 『私はイエスを私の癒し主として受け入れます』と尝试してみてください。さあ、そのことを言い続けなさい。みんなに言いなさい、『私は癒された。主よ、癒してくださってありがとう』と——そうすれば元気になります。」

「さあ、姉妹、おいでなさい。あなたは心から信じますか。あなたは心臓の病があり、関節炎もありますね。もう去ったと信じますか? 神が…?…アーメン。そのとおりです。アーメン。」

「さあ、ちょっと待ってください。皆さん、頭を下げてください。しばらく祈りましょう。」

「あなたに命じる——耳の聞こえない霊よ、神の御子イエスの名によってお前に命じる、この女から出て行け! …聞こえますか? 今は聞こえますね? あなたは癒されました。耳の聞こえない霊はあなたを去りました。行きなさい。アーメン。」

「あなたは糖尿病から解放されたいですか? ただ喜んでプラットフォームから降りながら『主イエスよ、ありがとう』と言いなさい。そうすれば癒されます。」

「皆さん、心から信じますか? 神を信じなさい。アーメン。」

「『もし信じる事ができれば、すべてのことが可能である』と聖書にあります。あなたの心を…神があなたを祝福されます。さあ…。」

59 「ここにもう一人、耳の聞こえない霊がいます。頭を下げてください。」

おお、耳の聞こえない悪霊よ、この女から出て行け。神の御子イエスの名によってお前に命じる、出て行け。

聞こえますか? 今、私の声が聞こえますか? 今、聞こえますか?

『アーメン』と尝试みなさい。

『私は主を愛します。私は主を愛します。』

『アーメン』と尝试みなさい。

はい、今あなたは癒されました。プラットフォームを降りて、喜び、神を賛美しながら帰りなさい。」

60 「さて、姉妹。あなたは先日、自分の部屋で祈っていましたね。小さなベッドの横にひざまずき、右手の方に椅子が置いてあった。そこで主にこう言いました。」

『もしブラナム兄弟の祈りの列に並ぶことができたなら、この神経衰弱から癒されるだろう』と。

それは本当ですね? その通りです。癒されました。行きなさい。主があなたを祝福されますように。

さあ、「主を賛美します」と言いましょう。

私は弱ってきました。そうしないで。もう少し近くにいてください。

さて。あなたは背中の中の病気を信じていますね? 神があなたを癒してくださると信じますか? さあ、行きなさい。神があなたを祝福されますように。アーメン。

さあ来なさい。頭を下げてください。耳の聞こえない方です。〔不明瞭な言葉〕

主よ、あわれんでください。イエスの御名によって、この女性を癒してください。私はこの霊が彼女から出ていくように祈ります。

さあ、喜びながら行きなさい。あなたは癒され、良くなりました。両方の耳で聞こえますね。今、もう大丈夫です。行きなさい。そして喜びなさい。

さあ、「主を賛美します」と言いましょう。」

61 「さあ、来なさい。

そこの心臓病を患っている黒人のご婦人、癒されたいですか？ こうして両手を挙げて座っておられる。心臓病から解放されたいのですね？ よろしい。立ち上がりなさい。イエス・キリストがあなたを完全に癒してください。お二人ともです。

そのすぐ後ろに座っている茶色のコートを着たご婦人、目をぬぐっておられますね。あなたも心臓病を患っていましたが、同じ時に癒されました。そして、兄弟、あなたも同じです。プラットフォームから喜んで降りて行きなさい。「神に感謝します」と言いながら。あなたも心臓病でした。今、その悪霊は一度に皆去って行きました。

さあ、「主を賛美します」と言いましょう。

よろしい、ご婦人。あなたの腎臓の病気は去りました。喜びながら道を進みなさい。ハレルヤ！ この建物の中にいるすべての悪霊は、イエス・キリストの御前にひれ伏さなければなりません。あなたはそれを信じますか？」

62 「信仰を持ちなさい。イエス・キリスト、神の御子は、あなたが必要とするすべてを取り扱うためにここにおられます。主は、あなたの誕生から生涯の終わりまで必要を満たすと約束されました。あなたには信じるだけの信仰があるのです。ただ今、主に信頼し、求めなさい。そうすれば受けるのです。

では、次の方を。……あなたがそのご婦人ですか？ 全心をもって信じますか？ 私を神のしもべと信じますか？ あなたは頭痛に悩まされていますね。それは胃の病気から来ていて、またその神経過敏がすべての原因となり、潰瘍性の胃になっているのです。そうでしょう？」

63 「あなたは宣教師で、インドから来られたのですね。そうですか？ そしてカナダとも何か関わりがありますね。私はカナダのものをみました……そうですね？ よろしい。あなたは癒されました。インドに戻って、どこであっても主を賛美しなさい。

さあ、イエス・キリストを受け入れましょう。今夜、イエスをご自分の癒し主として受け入れたい方は皆、どうぞ立ち上がってください。『主の御言葉』であります。今夜、神の御子であるイエスを癒し主として信じ、立ち上がる人は、癒されるのです。

全能の神よ、いのちの創り主よ、今この建物の中にあるあらゆる悪しき力が打ち砕かれ、病んでいる人々が解放されますように、イエス・キリストの御名によってお願い申し上げます。アーメン。」



www.messagehub.info

説教の語り手

ウィリアム・マリオン・ブラナム

"...第七の御使が吹き鳴らすラッパの音がする時には、神がその僕、預言者たちにお告げになったとおり、神の奥義は成就される。" 黙示録 10:7